

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成16年5月解析分)

## 1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成16年4月分(平成16年3月29日~5月2日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	866	1.44	0.51	↓	12	ヘルパンギーナ	93	0.25	0.08	↑
2	RSウイルス感染症	13	0.03	-	↓	13	麻疹	3	0.01	0.21	
3	咽頭結膜熱	206	0.55	0.09	↗	14	流行性耳下腺炎	227	0.61	0.97	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	420	1.12	0.73	↘	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.07	
5	感染性胃腸炎	4,438	11.83	7.09	↗	16	流行性角結膜炎	128	1.28	1.28	↗
6	水痘	520	1.39	1.68	↘	17	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.00	
7	手足口病	8	0.02	0.13	↘	18	無菌性髄膜炎	3	0.03	0.04	
8	伝染性紅斑	119	0.32	0.23	↗	19	マイコプラズマ肺炎	8	0.08	0.11	
9	突発性発しん	247	0.66	0.73	↗	20	クラミジア肺炎	0	-	0.00	
10	百日咳	8	0.02	0.02		21	成人麻疹	0	-	0.01	
11	風しん	11	0.03	0.04	↑	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↗
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感染症	53	1.96	1.90	↘	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	117	5.57	-	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.44	0.56	↗	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	78	3.71	-	↗
24	尖圭コンジローマ	15	0.56	0.48	↘	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	7	0.33	-	
25	淋菌感染症	27	1.00	0.84	↑	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

インフルエンザ 急減（3月1,459件 4月866件）

R S ウイルス感染症 急減（3月38件 4月13件）

風しん 急増（3月1件 4月11件）

ヘルパンギーナ 急増（3月36件 4月93件）

淋菌感染症 急増（3月10件 4月27件）

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症 発生なし

二類感染症 1件発生（腸チフス（疑似症）1件（広島市保健所管内））

三類感染症 3件発生（腸管出血性大腸菌感染症（O157 2件（広島市保健所管内1件，呉地域保健所管内1件），O26 1件（広島市保健所管内1件））

四類感染症 3件発生（日本脳炎1件，オウム病1件，A型肝炎1件）

全数把握五類感染症 4件発生（ウイルス性肝炎1件，後天性免疫不全症候群2件，アメーバ赤痢1件）

## 3 一般情報

### 風しん

全国3,000ヶ所の小児科定点医療機関からの報告数は，第18週（平成16年4月26日～5月2日）では218件と，第17週の203件に比べ増加しています。

多発している県は，栃木県，群馬県，福岡県，沖縄県です。

広島県の発生状況は，第17週，第18週共に報告件数は3件で，多発している状況にはありませんが，妊娠初期の女性が風しんに罹患すると，出生児が「先天性風しん症候群」を発生することがありますので注意が必要です。

【風しん】：風しんウイルスに感染してから14～21日の潜伏期間の後，発熱とともに全身に淡い発疹が出現し，通常3日程度で消失するので，一般には「三日ばしか」と言われています。

【先天性風しん症候群】：妊娠初期の女性が風しんに罹患すると，出生児が本疾患を発生することがあります。妊娠2ヶ月以内の女性が風しんに罹患すると，出生児は白内障，先天性の心臓疾患，難聴の2つ以上を持って生まれてくる 경우가多く，妊娠3～5ヶ月に感染した場合でも難聴が多く見られます。

【予防接種】：市町村が実施する定期予防接種を，生後12月～生後90月までは無料（一部有料の市町村もあり）で受けることができます。国の調査によると，1979年（昭和54年）4月2日～1987年（昭和62年）10月1日生まれの人で，現在16歳～24歳の年齢層を中心に，接種率が低いといわれています。

【予防接種にあたり注意すること】：女性の場合は，妊娠していないことが明らかで，接種後最低2ヶ月は，避妊が必要です。妊娠している場合は，予防接種ができないので，人ごみを避け感染を防ぎましょう。

### これからの時期に多発する感染症

#### ヘルパンギーナ

病原体は，コクサッキーウイルスで，症状は，38～40の発熱で発症し，咽頭痛，まれによだれ，頭痛，筋肉痛，発疹を認めることもあります。潜伏期間は2～4日で，予後は良好で解熱すれば2～3日以内に回復します。

感染経路は，飛沫感染で，乳幼児に発生しやすく，6月～8月に必ず流行します。

#### 腸管出血性大腸菌感染症

大腸菌は，家畜や人の腸内に存在し，ほとんどは無害ですが，人に下痢などの消火器症状や，まれに溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こし重篤になる場合があります。この感染症は，O-157が代表的な型ですが，最近，県内でO-26の患者が発生しています。症状は，下痢が主症状で，血便がある場合もあります。感染は，食べ物を介して感染する 경우가多く，食品は衛生的に取り扱うことと，手洗い消毒を十分することが重要です。

### 重症急性呼吸器症候群（SARS）

現在，WHOが指定する「伝播確認地域」はありません。ただし，中国の北京市と安徽省でSARS患者が発生しています。現在患者は健康監視下にあり，感染は拡大していません。中国から帰国後10日以内に，急な発熱，咳等のSARS様症状があり，ご心配な場合は，医療機関を受診する前に，電話で保健所又は医療機関へ相談してください。